# 第70回全国安全衛生大会 in 東京　参加報告

工学部技術部第二技術室　安藤　誠

開催期間：平成23年10月13日(木)～14日(金)（分科会）
会　　場：東京国際フォーラム、よみうりホール、大手町サンケイプラザ
主　　催：中央労働災害防止協会

## 参加目的

災害防止に関連する全国の事業場等の改善事例や研究発表を聴き、職場の災害防止に活かすため、この大会に参加した。

## 参加報告

分科会は複数の会場で11テーマが同時進行で行われた。そのため「安全管理活動」「機械・設備等の安全分科会」を中心に聴講した。

**・玉掛け作業の安全性の向上**

ワイヤロープの切断による事故原因は、①強度不足や腐食などによる玉掛け用ワイヤロープの耐久性の低下、②使用方法の理解が不十分、③ワイヤロープは消耗品として扱われ、管理面の軽視、④玉掛け用ワイヤロープを使用せず、価格が安い台付け用のワイヤロープを使用する、などがある。そこで、玉掛け作業において現行のワイヤロープの点検表に代わり、玉掛け用と台付け用が簡単に識別できる点検表へ改善を行った。

**・災害要因の撲滅を目指して**

製鋼工場で熱溶融物を運搬するクレーンの運転とライン保全業務は、高所作業であるために一歩間違えると重大災害につながる。職場内での安全を確保するために、潜在危険要因の洗い出しとリスク評価を行い、それらの対策を行った。

・ガーター上が鋼板で滑る・・・ガーター上にペンキに砂を混ぜ滑り止め対策
・昇降階段に粉塵が蓄積して滑り転落・・・階段のステップをパンチング鋼板に変更
・充電露出部の接触による感電・・・充電露出部にはアクリル板を設置

**・リスクアセスメントを通じた安全意識の結集**

労働災害の多くは作業員が作業環境の変化に追いつけない、労働災害防止への意識不足によって発生すると考え、リスクアセスメントを導入し、作業員の安全意識の向上に取り組んだ。また、リスクアセスメント委員を結成し、危険個所をタイムリーに把握する仕組みにした。危険個所の周知と対策などの安全衛生活動により、安全意識を向上す

ることに繋がった。今後の課題として、ヒヤリハットを収集し作業員の行動面から考えられる危険要因の低減を安全管理体制に盛り込んでいくことである。

**・リスクの低減と作業標準を活かした安全活動**

職場は19名で、50歳代以上12名となっている。今後、熟練作業者が短期間で減少していくなか、限られた人員を必要な時に必要な設備に配置しなければならい。そこで誰でも理解しやすい安全作業標準書の作成、リスクの少ない設備作りをすることが重要と考え、「家電製品の取扱説明書」をヒントに作業標準書を作成した（あらゆる危険を想定した説明、イラストを使った概要図や説明文、5W1Hを用いた説明）。また、標準書に盛り込めない個所は、作業標準書補足資料として、作業標準書とリンクさせた。今回の活動で、自設備を見直す良い機会となり、危険源はどんな作業の中にも潜んでいることを再認識することができた。

**・重量物取扱い作業の軽労化**

今までは重量約30kgの物を手で持ち上げ、試験機に取り付けていた。作業者の腰への負担も大きく、手を滑らせれば落下の危険もある。そのため台車を製作し、スライドレールを取り付けたりと理想の形に至るまで多くの改善を繰り返した。その結果として、作業者の負担を軽減し、軽労化となり安全な作業ができるようになった。

## まとめ

多くの企業が、災害が起こってから対策を考えるのではなく、災害が起こる前に危険要因やリスクの抽出を行い、ゼロ災害を目標にしていた。また、危険個所や危険作業を減らすための工夫を行っていて、大変参考になった。各職場でも危険要因やリスクの抽出を行い、今一度安全管理を見直す必要があるかないかの視点で、グループでの今後の安全衛生管理活動を行っていきたい。

なお、この大会は来年富山で開催される予定である。